

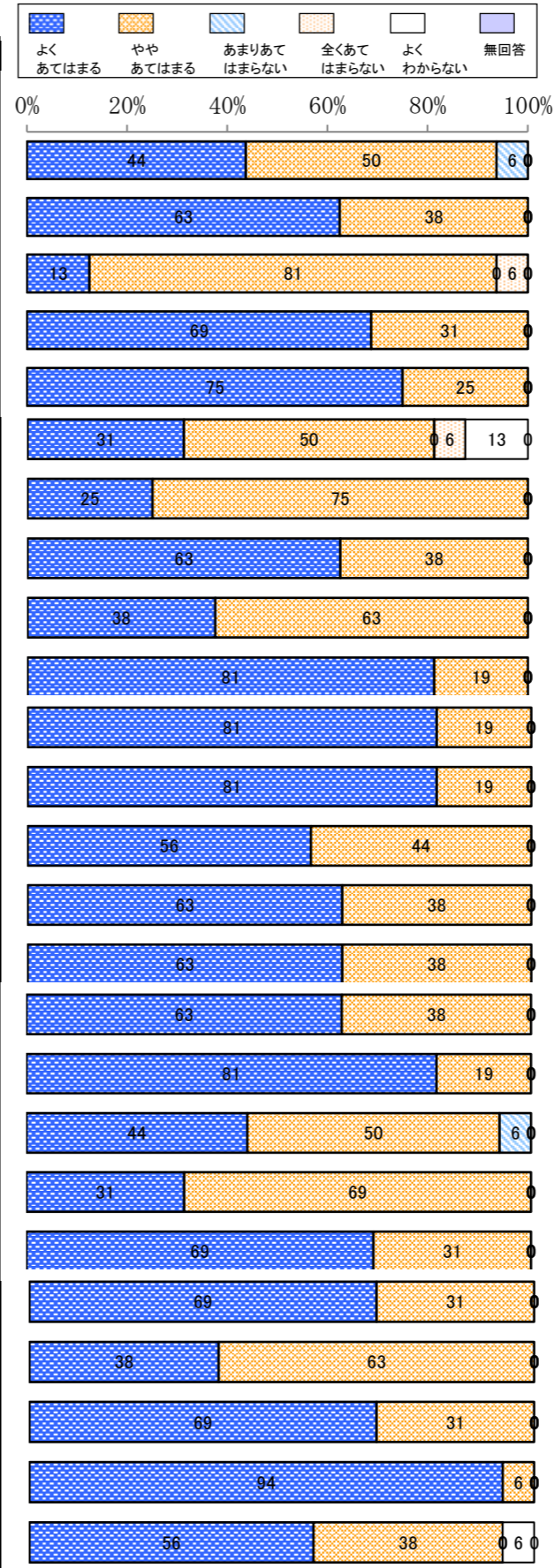
令和3年度 『学校評価アンケートの結果』 と 『自己評価』

荒川区立尾久第六小学校

様式 4

アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分らない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	34 38	55 57	8 2	1 0	1 3	0 0
	2	児童・生徒の様子	64 39	30 56	4 2	0 0	1 3	0 0
	3	基本的な生活習慣	47 25	40 63	10 9	2 0	2 2	0 0
	4	児童・生徒理解	24 38	56 52	15 5	2 2	3 3	0 0
	5	健康・安全・安心	63 47	29 47	5 4	1 1	2 1	0 0
学力向上の取組	6	分かる授業	57 36	32 55	9 3	1 1	1 5	0 0
	7	個に応じた指導	63 25	29 51	6 9	1 3	2 13	0 0
	8	学習習慣	66 40	23 52	7 4	3 0	1 4	0 0
	9	情報教育	63 47	30 45	4 5	1 0	1 4	0 0
	10	学校図書館の活用	63 49	28 43	6 3	1 1	2 4	0 0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	72 29	24 55	3 5	0 1	1 11	0 0
	12	道徳教育	48 31	36 55	11 4	1 0	4 10	0 0
	13	教育相談	47 24	31 54	14 6	3 0	5 17	0 0
	14	人間関係づくり	80 66	17 32	3 1	1 0	0 2	0 0
	15	自主的な活動	63 49	29 44	6 1	1 0	1 5	0 0
保護者・地域との連携	16	情報発信	54 46	28 48	9 5	2 0	7 2	0 0
	17	相談への対応	61 43	28 44	6 6	1 0	4 6	0 0
	18	学校への参加	49 43	30 49	12 5	4 1	4 2	0 0
	19	地域との連携	27 30	30 45	24 2	8 0	11 23	0 0
	20	意見の反映	57 31	29 44	4 4	1 0	8 21	0 0
各学校の特色ある教育	21	特色ある教育活動	54 37	33 45	10 5	2 0	1 13	0 0
	22	基礎・基本の定着	42 36	35 47	14 6	4 0	5 11	0 0
	23	自主的な休み時間の活用	63 52	24 40	10 2	1 0	1 6	0 0
	24	感染症予防の徹底	80 57	18 40	1 0	0 0	1 2	0 0
	25	外部人材の活用	57 30	34 41	5 4	1 1	3 24	0 0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価（考察）

○保護者の肯定群96%に対し児童は89%であるが昨年度からは上昇している。なじみ深い3つのキャラクターを生かしながら、引き続き分かりやすく伝えていく必要がある。

◎コロナ禍において、児童の肯定群は昨年度とほぼ同じ94%となっている。引き続き、児童が楽しい学校生活を送れるようきめ細やかな指導や声掛けを行っている。

◎肯定的評価が児童87%、保護者88%、教職員94%といずれも高い割合となっている。挨拶については取り組み時はよいものの、持続が課題となっており、引き続き力を入れて指導する。

○児童の肯定群が80%、保護者の肯定群が90%となっている。「ややあてはまる」が半数超であり、自己肯定感を得られるような指導を工夫し、丁寧に行っていく。

◎児童・保護者・教職員のいずれにおいても90%以上が肯定群である。避難訓練や安全指導等の成果だと思われる。引き続き防災教育の意義について具体的に周知していく。

○児童・保護者ともに88%が肯定群である一方、教職員の約2割は否定的評価をしており、一層の授業改善への意欲や課題の表れであると考えられる。

△児童の92%が肯定群であるものの、保護者の肯定群は76%に留まっている。算数少数指導やあらかわ寺子屋の活用を充実を図っていく。

◎保護者の92%が肯定的にとらえている。あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の提示など、授業以外の学習習慣の定着が進んでいる。また、寺子屋での検定の取り組みも定着している。

○児童の肯定群が93%である。1人1台のタブレットPCを各教科・領域で活用した授業づくりや、長期休業中の持ち帰りでの活用が成果につながったと思われる。

◎児童、保護者共に肯定群が90%を超えている。蔵書の充実や調べ学習での活用、読書賞への取り組みや読み聞かせ等で学校図書館が十分に活用されていることが分かる。

○児童の肯定群は多く、いじめ発見アンケートやその後の指導などが安心感につながっていると考えられる。一方、「わからない」とする保護者も11%おり、取り組みを周知していく。

○児童・保護者・教職員ともに肯定群が80%以上である。引き続き児童に対してねらいとする道徳的価値に迫れるような授業を工夫したり、日常でも指導を行っている。

△児童・保護者ともに肯定群が78%であるが、児童の否定群や保護者の「わからない」がそれぞれ17%いる。担任や養護教諭、スクールカウンセラー等、幅広く相談できる体制であることを折に触れて伝え、今後も組織的な対応、丁寧な初期対応に努める。

◎児童、保護者共に97%と高い肯定的評価を得ている。良い人間関係を築き合い、仲良く学校生活を送ることができていることが分かる。

○児童、保護者の肯定群が90%を超えており、コロナ禍ではあるが自ら考えながら活動できるように工夫することができている。今後も感染症対策を徹底しながら行っていく。

◎昨年度に引き続き、保護者は94%と高い肯定的評価を得ている。ホームページの日常的な更新と、学校日より学年日より緊急時のメール配信が効果的であると考えられる。

○児童・保護者ともに肯定群は昨年度と同様に90%近い。家庭からの連絡帳や電話による連絡や相談について素早い対応を心掛けていることが反映されていると考えられる。

○感染対策を十分にしながら、学校行事や授業公開を行ったことで保護者の肯定的評価は90%を超えているが、児童がその事実を知らない家庭もあると思われる。家庭内で話題するよう提案する。

○昨年度と比べて、児童の否定群や「よくわからない」が多い中、保護者からは75%の肯定的評価を得ている。周年記念行事等で地域との連携を行っていることも評価されていると考えられる。

△保護者の「わからない」が8ポイント上昇し、21%になっている。行事や公開ごとにアンケートを取っているが、それを受けて改善したことを周知することに取り組んでいく。

○昨年度は、高学年になるにつれ、否定的回答が増えていたが、研究を通して、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとするための手立てを実践していった結果、偏りが小さくなっている。

△多くの児童が基礎・基本をもとに主体的な学びに生かしているが、18%の児童は否定群である。マスタータイムやあらかわ寺子屋のさらなる活用等、児童の基礎・基本の定着に向けた取り組みを強化する必要がある。

○87%の児童が校庭で遊んだり、学校図書館で本を読んだりして、自分で考えながら休み時間を楽しく過ごすことができていた。保護者もそうした児童の様子を理解していると考えられる。

◎児童の98%、保護者の97%が肯定的評価をしている。引き続き、状況に応じながら感染症対策を徹底していく。

△91%の児童が肯定的評価をしている一方で、71%の保護者が肯定的評価でありつつも24%が「よくわからない」と回答している。昨年度よりも外部人材を招くことができていたの周知不足と考えられる。HPや学年日より等を活用する。